

## 第23回

# 森とのふれあい

第23回「森とのふれあい」『講演』を11月8日に実施しました。

今回の講演は、樹木医である鈴木順策氏を講師に招き、森林のこと、樹木の病気や治療のこと、庭木や盆栽の作り方などを、スライドやビデオを交えて行われました。

特に、病気の治療については、今まで手がけられた樹木の外科手術をスライドで紹介し、弱り切っていた樹齢数百年の大木が、翌年には若葉が沢山つき見事に蘇った話には、参加者の方々は食い入るように聞いていました。講演の最後は、参加者の方々の質

講演 樹木医 鈴木順策氏  
樹木の外科手術をスライド等で紹介

問時間も設けましたが、庭木の病気のことやその治療方法、実際に枝を持ち込んで講師に見てもらおう等様々な質問があり、盛況に終えることが出来ました。



講演する鈴木樹木医

## お知らせ

### イベント

- 1月 9日(土) 親子の木工教室
- 2月 27日(日) 発見の森で歩くスキー
- 3月 12日(日) 遠音別山麓歩くスキー



### 編集後記

雄大で悠揚たる知床の自然。そしてオオワシも北方圏から飛来し、オホーツク海鳴りを聞きながら師走を迎え、慌だしい今日この頃です。

センターでは12月までのイベント等も終え、まもなく新年を迎えることとなります。

各種の業務の成果と今後も知床からの情報を広報を通して発信し続けたいと思っております。



初冬の羅臼岳

## 知床の森から

平成10年12月 第58号



流水に映えるミヤマザクラ  
樹齢1000年(推定)断崖に力強く根を張る

北見管轄支局 〒099-41 北海道斜里郡斜里町本町11番地  
知床森林センター Tel 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160  
ホームページ <http://www.siretoko.knc.ne.jp/>



## 知床は今



夏のあいだ観光客で賑わっていた知床も、冬の訪れと共に静けさを取り戻し、漁船も秋鮭漁が終わり丘に上がり、冬ごもりに入った。知床の山々は真っ白く雪化粧、沿道の木々はすっかり葉を落とし、枝には雪が被りカシワナラの葉が風にカサカサと寒そうに音を立てている。これから知床半島は、本格的な冬を迎える。冬の使者オオワシが、早々とカムチャッカ方面から越冬の為にやって来て、白波の立つオホーツク海の上空を舞っている。半島に生息



グライダーの様に滑空するオジロワシ



雪化粧の知床連山

しているエゾリスやキタキツネなどの動物は冬支度を終えたのだろうか。

今年はドングリの実のりは良かったようなので土の中の倉庫は一杯になっただろう。また食べ物を求め冬の間、道沿いの斜面に現れるエゾシカによる樹木食害はどの程度になるだろうと考えながら車を走らす。現在は通る車も少なく自然を取り戻している。冷たそうに黒々として白波の立つオホーツク海に流水が来る1月末には海を埋める広大な流水原を求め観光客も増えて来るだろう。

# 知床半島のドングリ、今年は並作

## 「ミズナラ堅果結実調査」10年目を迎える

当センターが毎年（知床半島）行っている「ミズナラ堅果結実調査」の本年における調査結果がまとまった。

この調査は、森林・林業の主要樹種であるミズナラについて、その結実習性、結実量、及び堅果落下時期等に地域差、個体差があり究明する課題が多く、また、エソヒグマ、エゾシカなどの動物にとっては重要な食料となることから、堅果（ドングリ）の結実状況などの把握を長い期間で行う中で、その生態を観察し知床半島のミズナラ造成に資することを目的に行っており、ちょうど今年で10年目を迎える。

調査地は、知床半島の国有林内に2カ所設置し、太さの異なる合計25本のミズナラ調査木を対象に調査を進めている。

堅果の収集は、各調査木の枝の広がる（樹冠）3方向の下に、落下する堅果を受け止める1m四方のシードトラップの仕掛をそれぞれ1個ずつ設置し、落下した堅果を樹冠面積

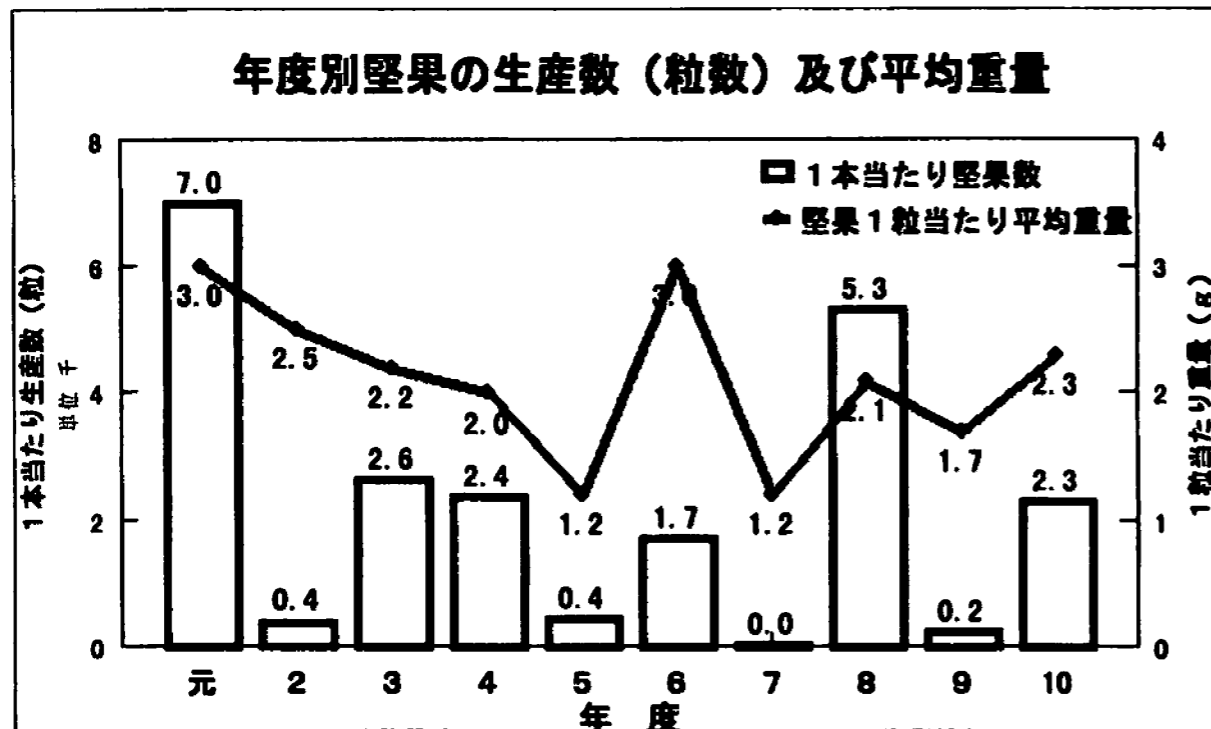
の換算率で求めている。

堅果の収集期間は9月中旬から10月下旬まで、週一回の固定曜日を収集日として5回実施している。堅果のデータとしては、1粒当たりの平均重量、形状、健全度などを得ている。

本年の調査について、調査箇所1カ所が、道路崩壊の復旧工事のため調査を断念し、残り1カ所15本の調査となった。

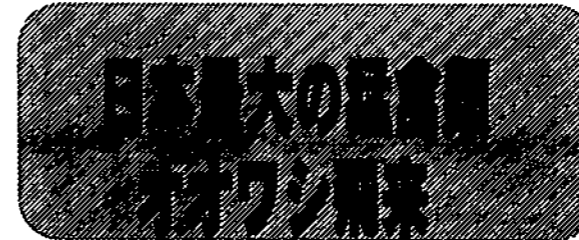
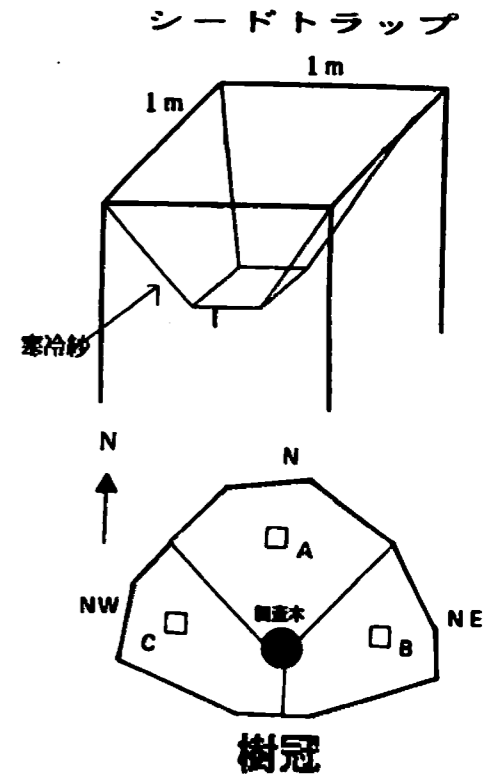
10年間の調査結果は、下図のとおりで一本あたりの堅果生産数は2,303粒である。豊作・並作・凶作で見た場合、本年度は並作と見る事ができる。

過去10年間を見ると、豊作であった8年の翌年は凶作、翌々年の本年は並作となっており、元年度の豊作以降の生産数量のパターンをたどっている。このことは10年間という短い期間で一概には言えないが、来年の結実量を把握出来るデータとして見る事が出来るのでは



ないかと思われる。また、堅果重量においても過去重量の平均的な重量を示しており生産数量との相関関係を示している。果たして来年は、並作以下なのだろうか？大変興味深いところである。

調査地以外の状況はどうか、当センターで把握している限りでは、総体的には並作以上の実りの多い年ではなかったかと推測される。その理由として、目視した限りにおいては当調査区並あるいはそれ以上のドングリが確認出来、また、11月下旬になっても親木の下にドングリが散らばっていることから（凶作であれば定期的に動物の捕食や貯蓄により確認は困難）比較的実りが多かったのではと推測する。いずれにしても、今冬の野生動物たちにとっては、生命をつなぐ貴重な食料源として確保されているはずである。



知床にも冬の使者であるオオワシやオジロワシが飛来する時期になりました。

オオワシは翼を広げると220㎝～245㎝になる日本最大の猛禽類です。オジロワシは翼を広げると180㎝～230㎝でオオワシよりも少し小さくなります。

主にオホーツク海北部沿岸やサハリンなどから10月下旬から11月上旬に知床へやって来ます。



冬の使者オオワシ

今年は、11月中旬頃に森林センターの窓からオオワシの姿が見られ、双眼鏡を持ち外へ飛び出し青空に映えるオオワシの姿を見ることができ感動しました。

流水が来る頃には、流水の塊の上や断崖沿いの木の枝や岩の上にオオワシやオジロワシの姿をよく見かけます。

仕事で斜里からウトロへ向かう海岸沿の断崖の上を空高くグライダーの様に滑空するオオワシやオジロワシの姿を見ると、知床にも厳しい冬がやって来る前ぶれを感じます。



オジロワシ